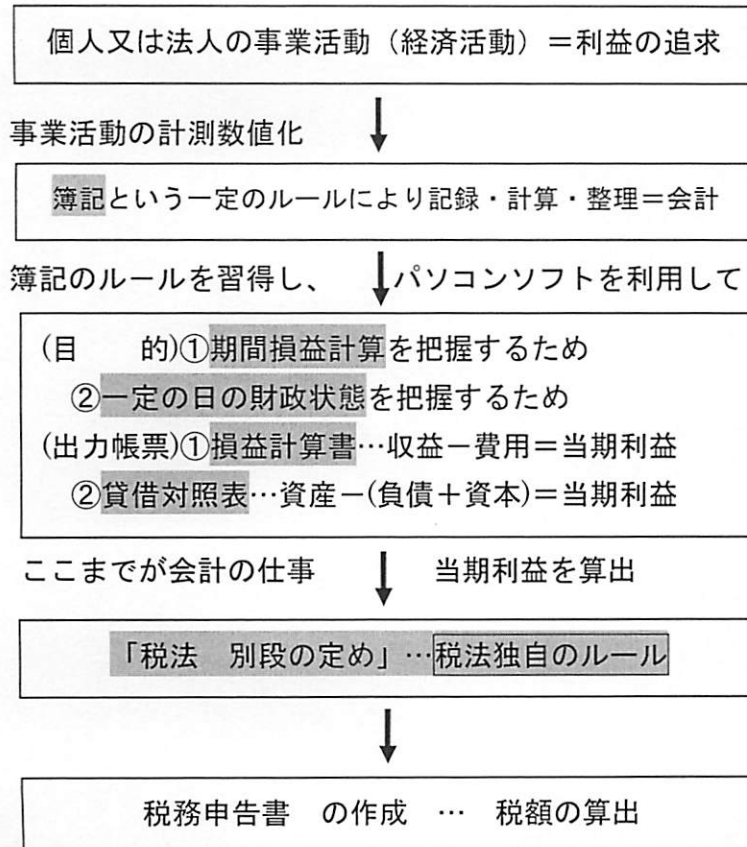


税務と会計の基礎知識

い印 農業簿記 講習会 第1回

平成27年5月23日講義

【1】税務と会計の関係 … 会計が基本（基礎）



個人の利益（課税所得）→所得税（国）・市県民税（地方）が課税される。
法人の利益（課税所得）→法人税（国）・法人市県民税（地方）が課税される。

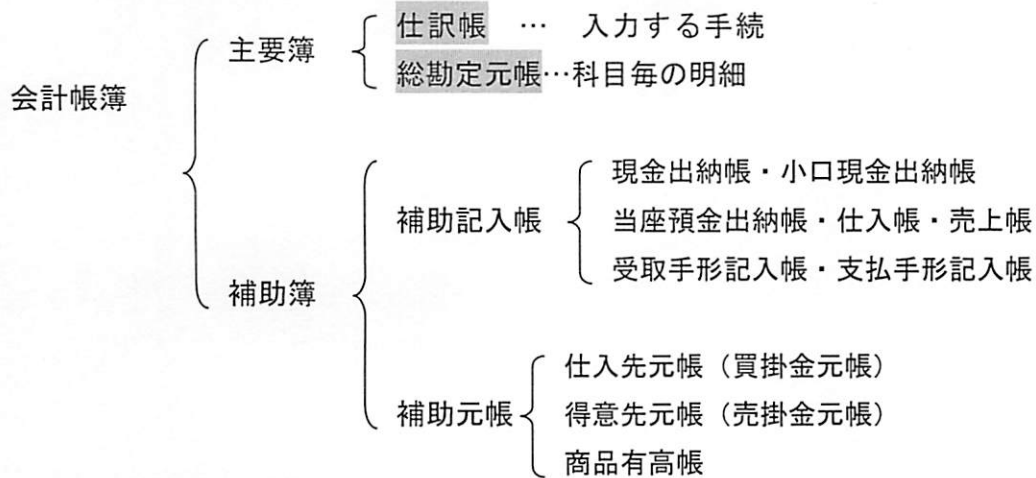
ポイント ☛ 会計が基本 税法はその後の税額計算

- ① 農業という事業とは、資金を投入し、農産物を栽培・育成等し、それらを販売して資金を回収する。…これを反復継続する。
- ② ということは、これらの事業を数値化して計測しなければ、経営も成り立たないし、何がどうなっているのかわからないことになる。
- ③ ここで、皆様がそれぞれが行う個人の農家又は農業生産法人を想像してください。
- ④ 何をどれくらいの規模で行うのか。…そのためにどのような準備や事後処理が必要なのか？いくら資金を投入して、その結果いくら資金が回収できるか？
- ⑤ （例）種をまき、栽培し、管理して、… 収穫して、販売する。
- ⑥ これらの一連の作業を、数値に置き換えて計測する作業が「会計」であり、その計測方法のルールが簿記なのである。

【2】 会計帳簿組織 … 会計で用いる帳簿の体系

一般的に、帳簿組織とは会計のための帳簿(会計帳簿)や伝票の種類、様式とその組合わせのことをいいます。(…昔は手書きで作成、今はパソコンソフトを使用して作成)

(1) 会計帳簿



現在ほとんどの事業所ではパソコンによる会計ソフトを用いています。
実際の会計処理は次のような流れとなります。

会計処理の基礎となる証憑書類 (請求書・領収書等)

取引を証明する書類を収集 ↓ して、整理して綴る。
相手先毎、日付順等ルールを決めて整理すること。
会計が正確にできるかどうかは、これらの書類の整理につきる。

伝票起票 (この部分は省略可)

パソコンに入力する。

出力帳票 (仕訳帳、試算表、貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳)

【3】簿記の基本的考え方

(1) 簿記会計のしくみ

1. 簿記会計の目的

簿記会計の最も大きな目的は、事業所の経済活動を数値化して把握することです。
そして、経済活動の目的は利益の追求であることを考えれば、
会計の目的とは、

- ① その期間（決算事業年度、会計期間）内に、どれくらい売上げて、その売上にかかるコスト（費用）はどれくらいあるのか。…期間損益計算「原因」
- ② その「結果」、その計測した期間の末日において、財布の中身すなわちプラスの財産から、借金等のマイナスの財産（負債）を引いた差額（純資産）はどれくらいあるのか。…一定の日の財政状態はどのようになっているかを計測するためということになります。

2. 期間損益の計算方法

一定の期間にいくら儲かったかを具体的に把握するには、次の作業をすればよい。

- ① いつ（日時）、いくらを（金額）、何を（内容）、誰に（相手先）売ったか … 売上
- ② いつ（日時）、いくらを（金額）、何を（内容）、誰から（相手先）買ったか … 費用
- ③ ①－②＝当期利益

いくら儲かったかを把握するための表を「損益計算書」（＝P/L : profit and loss statement）と呼びます。

この表は、一定の期間の期首（スタート）から期末（エンド）まで（個人は 1/1～12/31、法人は、あらかじめ定めた会計期間…あらかじめ税務署に届出…例 26 年 4/1～27 年 3/31）において利益がいくらか又は損失がいくらかを算出するためのものです。

損益計算書 例 1/1～12/31

費用 (種苗費肥料費 農薬費等)	収益 (農産物売上) (受取手数料)
当期利益	(雑収入) 等

3. 財政状態の把握

経済活動は、利益の追求を目的として継続され、次のモデルがその定番です。

[種・苗仕入] … [栽培等] … [収穫して売上] ～ この繰り返し

これら経済活動は、必ず金銭に反映され、計測できます。

種や苗を仕入れたならば、その仕入代金を支払うことになり、その栽培コストとして電気料や消耗資材等を消費し代金を支払います。（資金の投下）

また収穫した農産物を売上げ売上代金が回収されます。（資金の回収）～ 繰り返し

利益追求を目的とする経済活動は、繰り返し資金を投入して、また資金を回収することから、財産（現金・普通預金・売掛金・未収入金・建物・構築物・車両・備品その他）の増加又は減少を、負債（買掛金・未払金・預り金・短期借入金・長期借入金その他）の増加又は減少を伴います。

ということは、農業という事業活動の結果である毎日の財政状態（事業用財産がいくらあり、また事業用負債がいくらあるのか、すなわち事業用の財布の中身）を継続して計測すれば、その原因である農業の経済活動を把握できることとなり、それらはいわば表裏一体の関係にあるわけです。

すなわち、一定の期間内にいくら儲かったかということを知るためには、具体的な財産である現金の増減、普通預金の増減、売掛金の増減、あるいは負債である買掛金の増減、未払金の増減等の財政状態を明らかにすればよいということになります。

☛ 農家（個人）又は農業生産法人が行う農業という事業活動の計測について

- = 現金の増減（現金が増えた、減った）の計測
- 普通預金の増減（普通預金残高が増えた、減った）の計測
- 売掛金・未収入金の増減（売掛金未収入金の発生、回収）の計測
- 買掛金・未払金の増減（買掛金未払金の発生、支払）の計測
- その他の資産（財産）または負債（借財）の計測
- … を計測すればよいこととなります。

財政状態の把握は、例えば現金残高の把握又は普通預金残高の把握という形で、具体的に目に見える形で把握されます。一定の日における財政状態は、「貸借対照表」（=B/S : balance sheet）という表の作成でわかることとなります。

貸借対照表は、左側にプラスの財産である資産を並べ、これらの財産は誰がもともと出したのかわかるように、右側に事業主が拠出した部分である資本と、負債（他人から借りてきた資金）の合計額を表示します。

貸借対照表 例 12/31

資 産	負 債
（現金・預金	（借入金 等）
売掛金・建物	資本（純資産）
車両・機械等）	当期利益

4. 複式簿記の原理

上記の通り、いくら儲かったかという損益の把握は、その結果として必ず財政状態にリンクしており、表裏一体の関係にあります。これを仕訳という形で表現し「損益計算書」「貸借対照表」を作成する一連のしくみを（複式）簿記といいます。

ここで、損益計算書、貸借対照表の中に提示してある5つの要素と仕訳のルールをまとめると次のページの通りとなります。

(借方)

(貸方)

<p>資産の部</p> <p>(=財産の意味)</p> <p>具体的な残高が把握できる。 現金預金等の目に見えるものの他 法律上の権利等がある。</p> <p>[例示]</p> <p>現金 預金 (普通預金、定期預金等) 売掛金 未収入金 貸付金 立替金 建物 建物付属設備 構築物 車両運搬具 備品 ソフトウェア :</p>	<p>負債の部</p> <p>(=債務又は借財、他人資本とい う☛他人に返還すべきもの)</p> <p>具体的な残高の把握ができる。 借入金等の具体的に認識できるもの の他、法律上の債務等がある。</p> <p>[例示]</p> <p>買掛金 短期借入金 未払金 預り金 :</p>														
<p>費用の部</p> <p>(=収益を獲得するためにかかったコ スト…収益に対応すべき費用を集計)</p> <p>[例示]</p> <table border="0"> <tr><td>種苗費</td><td>肥料費</td></tr> <tr><td>農薬費</td><td>農具費</td></tr> <tr><td>消耗資材費</td><td>包装費</td></tr> <tr><td>支払地代</td><td>支払手数料</td></tr> <tr><td>修繕費</td><td>水道光熱費</td></tr> <tr><td>運賃</td><td>減価償却費</td></tr> <tr><td colspan="2">:</td></tr> </table>	種苗費	肥料費	農薬費	農具費	消耗資材費	包装費	支払地代	支払手数料	修繕費	水道光熱費	運賃	減価償却費	:		<p>資本の部 (純資産の部)</p> <p>(=株主が拠出した資金額と過去の利 益の合計額、自己資本ともいう)</p> <p>負債との根本的な相違は、返却を要し ないこと。☛自分のもの</p> <p>[例示]</p> <p>資本 前期繰越利益 :</p> <p>収益の部</p> <p>(=売上、受取手数料、雑収入等)</p> <p>[例示]</p> <p>農産物売上高 受取手数料 受取配当金 雑収入 :</p>
種苗費	肥料費														
農薬費	農具費														
消耗資材費	包装費														
支払地代	支払手数料														
修繕費	水道光熱費														
運賃	減価償却費														
:															

この差額が
当期利益で
ある！

簿記のルールとして、借方とか貸方という用語を用いるが、これは誰かに貸したり借りたりする意ではなく、左側右側と同様の慣用句であるので、そういうものとして覚えて下さい。

また、簿記のルールとしてマイナスの数値は用いないため、次の規則によります。

※ルール

前ページの表にて（借方）にある資産の部、費用の部は借方科目とよびます。また（貸方）にある負債の部、資本の部、収益の部は、貸方科目とよびます。

そして、借方科目は、仕訳を起こす場合に、増加の場合は借方に記載することを、減少の場合には貸方に記載することを決めています。

一方、貸方科目は、仕訳を起こす場合に、増加の場合は貸方に記載することを、減少の場合には、借方に記載することを決めています。

※5つの要素の仕訳のルール（網掛け部分が残高となる）

(借方)	資産科目	(貸方)
増加 (+)		減少 (-)

(借方)	負債科目	(貸方)
減少 (-)		増加 (+)

(借方)	資本科目	(貸方)
減少 (-)		増加 (+)

(借方)	費用科目	(貸方)
増加 (+)		減少 (-)

(借方)	収益科目	(貸方)
減少 (-)		増加 (+)

【4】会計処理の原則的な考え方

(1) 収益の計上時期 … まず収益を認識する。☛ 売上の把握

① 売上計上時期の一般原則

売上高は実現主義の原則により認識します。この実現主義の原則というのは、イ.相手に、有形・無形の財を引き渡していること、および ロ.引き渡した財貨の対価が相手(買手)の同意を得て確定していることを指します。

② “引渡し”の意味

一口に“引渡し”といっても、業種・業態によってさまざまなケースが考えられますが、一般的な“引渡し”の判断としては、イ.出荷した日、ロ.相手方に納入した日、ハ.相手方が検収した日などです。いずれにしても、取引の実態に即した基準をとり、その基準を継続的に適用することが必要です。

ここで大事なことは、現金や普通預金等で入金されていなくても、引き渡して請求権が確定したものは、その時点で売上となるということです。

(2) 費用配分と収益費用対応 ☛ 次に収益に対応する費用を抜き出す。
＝収益費用対応の原則又は費用収益対応の原則

①売上原価（農産物製造原価）の測定 ⇒ 直接原価 個別対応

売上原価（農業の場合の農産物製造原価）とは、売上げた農産物のもともとの原価をいいます。農産物の場合、その農産物をいくらで作成したのか考えてください。商品や、工業製品とは異なり、計測することは簡単ではありませんが、考え方は次の通りです。

種苗費＋肥料費＋農薬費＋電力費＋人件費＋消耗材料費＋包装資材費＋支払運賃
＝農産物製造原価

つまり、農産物のひとつひとつは、実に多くの原価（コスト）の積み重ねによりできているのです。

そして、この農産物製造原価は、農産物売上高（収益）に直接対応しているものと考えます。

②販売費および一般管理費の把握 ⇒ 間接原価 期間対応

たとえば、農産物の製造原価以外でも、賃借料（リース料）や諸会費、交際費、支払地代家賃、通信費等の販売費・一般管理費（＝その他の経費）については、農産物の売上のためにかかっているのは間違いないわけで、収益について間接対応しており、期間対応しているものと考えます。

【5】証憑書類＝原始資料 の揃え方

会計は、ひとつひとつの事業活動（経営活動）について発生した、納品書・請求書・領収書等の原始資料を収集し、分類する作業から始めます。

大きく次の考え方で分類すればよろしいと思います。

(1)取引を次のように分類する。

・売上に関する取引

当農家の売り上げの形態に合わせて考える。

当農家が納品書・請求書を作成して販売する場合 … 請求書

当農家がJAか市場かそれとも販売先業者に納品し、先方から、日付・品目・数量・単価等を記載した書類をもらう場合 … 先方からの引取書・検収書・仕切書

上記の売上発生を証明する書類と、実際に入金した書類を、相手先毎に日付順に綴る。

☛ 綴り方 相手先毎、日付順、できれば月毎にいくら販売したかわかるように集計

・仕入・経費（必要経費）に関する取引

当農家が、どんな費用がかかり、いつ、何を購入し、その代金はどのように支払うか考えて分類する。

・必要経費について、毎月経常的に発生する費用と、その都度、単発で発生する費用に分けて考えるとわかりやすいと思います。

毎月経常的に発生する費用 … 相手先別に、納品書・請求書・支払った時点での領収書・振込受付書等を綴る。

その都度随時（スポット）発生する費用 … 日付順に領収書を綴る。

(2)その取引から、入力する準備を行う。

農家の取引は、おそらく次の取引に集約できるはずです。

・現金取引 … 現金については、毎日自分自身が記録しないとすぐわからなくなってしまいます。農業用の現金を財布又は金庫にて管理して、昨日の現金残高に、当日の現金の増加と当日の現金の減少を加算減算すれば、当日の現金残高が算出され、これと実際の現金残高を確認して一致していることを検証します。

・普通預金取引 … 普通預金通帳に、入金の手先・内容を記録し、出金の手先・内容を記録すれば、通帳自体が普通預金出納帳の役割を果たします。

・その他の取引 … 現金取引・普通預金取引以外の取引は、決算修正時に正しい資産・正しい負債を計測しながら行います。